

令和7年度

第67回 全国公立学校教頭会研究大会

第66回 関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会

第66回 茨城県小中学校教頭会研究大会（水戸大会）



茨城大会

〔第2次案内〕

研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

（第13期全国統一研究主題 3年次）

キーワード＜自立・協働・創造＞

— 郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進 —



弘道館



ごあいさつ



全国公立学校教頭会
会長

まつの ひろふみ
松野 博文

「茨城大会によせて」

第67回全国公立学校教頭会研究大会は、関東・甲信越ブロックの茨城県水戸市において開催いたします。令和7年度は、全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を掲げた第13期3年目でまとめの年となります。

昨年度は第13期2年目として南国土佐の高知県高知市において、ハイブリッド大会（参集とオンラインの併用）にて開催した大会でした。参集した会場やオンラインでのブレイクアウトルームにおけるグループ協議で、それぞれの地域・勤務校での実践を踏まえた議論が組み交わされ、大きな成果を得ました。本大会も、これまでに得た経験と知識を生かした「進化したハイブリッド大会」開催となります。そして「自立・協働・創造」というキーワードのもと、「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」をサブテーマに設定して研究に取り組んでまいります。

学校教育の質の向上や働き方改革など、学校は大きな転換期にある中「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に向けて中心となるのが私たち副校長・教頭です。この研究大会は、各教頭会・副校長会が、政策提言能力を備えた職能研修団体として力をつける、唯一無二の貴重な場です。全国の副校長・教頭先生が活発に意見を交わし、大いにその力量を磨いてほしいと願っています。全国の会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。



茨城大会実行委員会
委員長

あんざい ひろあき
安齊 寛

「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」

第67回全国公立学校教頭会研究大会が、第66回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会並びに第66回茨城県小中学校教頭会研究大会と兼ねて、幕末に多くの人々が全国から学びに集った「弘道館」を有する茨城県で開催されます。

本大会は、第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の3年次にあたり、一昨年の石川大会、昨年の高知大会と深めてきた研究をさらに発展させ、サブテーマを「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」とし、全国の皆様をお招きする参集型と茨城と全国を結ぶオンライン型を融合したハイブリッド型で開催いたします。

社会では、人工知能（生成AI）や、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代が到来しつつあります。社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつあり、複雑で予測困難となってきています。学校現場でも、少子化による児童生徒数減少やそれに伴う統廃合、長時間労働や教職へのマイナスイメージ、教師のなり手不足など、問題は山積しています。このような中、私たち副校長・教頭には、教員の資質向上や労働環境の整備、地域資源の活用などに取り組み、時代をたくましく生き抜く人財を育てる活力ある学校を創り上げることが求められています。

茨城大会では、各界で活躍される茨城に縁のある方々による記念講演・シンポジウムや全国各地の皆様と共に語り合う分科会を通して皆様の明日からの実践に役立つ大会になるよう、副校長・教頭が「オール茨城」で大会運営に邁進してまいります。

また、この機会に、全国の皆様に茨城の食・自然・歴史に触れて、茨城の魅力を発見していただきたいと思っております。皆様のご参加を心より歓迎いたしますとともに、お会いできることを楽しみにしております。



開催要項

- ◇主催 全国公立学校教頭会 関東甲信越地区公立学校教頭会 茨城県小中学校教頭会
 ◇後援 文部科学省 全国都道府県教育長協議会 茨城県 水戸市
 (申請中を含む) 茨城県教育委員会 水戸市教育委員会 公益社団法人日本教育会
 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 茨城県学校長会
 全国へき地教育研究連盟 公益財団法人日本教育公務員弘済会茨城支部
 公益社団法人日本PTA全国協議会 茨城県PTA連絡協議会
 水戸市PTA連絡協議会 (順不同)
- ◇大会主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(第13期全国統一研究主題 3年次)
 キーワード <自立・協働・創造>
 サブテーマ 「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む
 活力ある学校づくりの推進」
- ◇開催期日 令和7年7月31日(木)・8月1日(金)
 ◇開催地 茨城県水戸市
 ◇開催方法 参集型・オンライン型を併用したハイブリッド大会
 ◇会場 全体会場：水戸市民会館(グロービスホール)
 分科会場：水戸市民会館(会議室・展示室)
 アダストリアみとアリーナ 水戸プラザホテル
 水戸京成ホテル 水戸三の丸ホテル
 ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸

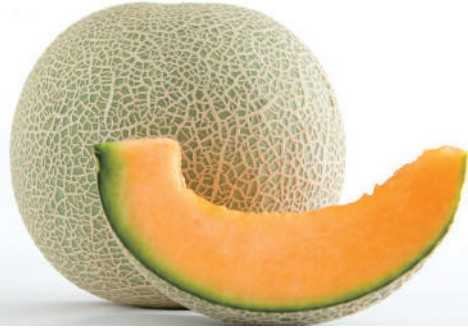
◇日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
第1日目 7月31日 (木) 水戸市民会館				受付	開 会 行 事	場 面 転 換	記 念 講 演	休 憩	シンポジウム	諸 連 絡
第2日目 8月1日 (金) 各会場	受付	分科会①		昼食 (弁当)	分科会②		閉 会 行 事			

- ◇記念講演 講師 石井 竜也 氏 (アーティスト)
 演題 「仲間とともに未来へはばたく人財育成のために」
 — 忘れないで あのときめき — 一人じゃない もう一度空へ —

◇シンポジウム

- テーマ 「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」
 コーディネーター 小林 祐紀 氏 (放送大学 准教授)
 シンポジスト 富田 敬子 氏 (常磐大学・常磐短期大学学長 茨城県教育委員会委員)
 西村 卓朗 氏 (水戸ホーリーホック 取締役GM)
 塚越 敏典 氏 (株式会社結城麦酒 代表取締役 元校長)



©JAXA

研究内容 「郷土を愛し 協働して未来にはばたく」

研究の基本目標

21世紀も20年余りが経過し、AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた超スマート社会Society5.0時代の到来をはじめ、グローバル化の進展や人口構造の変化など社会の様々な領域で加速度的に日々変化し、将来を予測することは難しくなっています。将来の予測が困難な社会状況の中で、時代の進展を的確にとらえ今後の教育の在り方を見極め、日本国憲法・教育基本法・学習指導要領の理念に基づき、子供たち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが、私たちの大きな使命だと考えています。

このような背景を踏まえ、「社会や地域に開かれた学校づくり」を展開し、未来を拓く「生きる力」を高め、豊かな人間性や創造性、国際社会の一員としての自覚をもち、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するために私たちは貢献しなければなりません。その使命を果たすために私たちは、副校長・教頭の職務内容の研究を通して力量を高め、国民の期待に応える魅力ある学校づくりに努めることが求められています。

以上のことから、次のことを研究の基本目標とします。

● 教育理念に基づく学校教育の実現

特色ある学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現を目指す。

● 副校長・教頭としての力量の向上

広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。

● 学校の社会的役割の推進

国民の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。

分科会	課題	各課題の内容	提言者	
第1 A	教育課程に関する課題	◇信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価（カリキュラム・マネジメント） ◇教育目標の設定と具現化 ◇教科横断的な視点に立った資質・能力 ◇教育課程の実施と学習評価 ◇幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携 ◇小中一貫教育 ◇家庭や地域との連携及び協働	九州	鹿児島(小)
			関東甲信越	栃木(中)
第1 B			北海道	札幌(小)
			茨城	常陸太田市(中)
第2	子供の発達に関する課題	◇確かな学力の確実な定着 ◇児童生徒の豊かな人間性の育成 ◇児童生徒の健康・体力の増進 ◇生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成 ◇その他、児童生徒の発達を支える教育課題	東北	山形(中)
			関東甲信越	群馬(小)
第3	教育環境整備に関する課題	◇児童生徒の安心安全 ◇学校の施設設備 ◇学校、家庭、地域との連携と協働 ◇学校規模適正化 ◇文書事務、経理事務の管理 ◇教育の情報化	東海北陸	富山(中)
			関東甲信越	東京(小)
第4	組織・運営に関する課題	◇学校運営全般 ◇人材育成や組織力向上 ◇リスク管理や危機管理 ◇地域連携(コミュニティ・スクール) ◇異校種間連携 ◇その他、組織・運営	近畿	大阪(中)
			関東甲信越	埼玉(中)
第5 A	教職員の専門性に関する課題	◇教職員の専門家としての意識高揚 ◇教職員の指導力等の育成 ◇教職員の研修 ◇教職員の服務 ◇学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上 ◇教職員の協働体制の構築 ◇教職員の学校運営参画意識の向上	中国	島根(小)
			関東甲信越	新潟(小)
第5 B			四国	高知(中)
			茨城	結城郡(小)
第6	副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題	◇チーム学校における職務内容に関すること ◇効率的な学校運営に関すること ◇教職員の働き方改革に関すること ◇教職員の支援に関すること ◇副校長・教頭候補者の育成に関すること	全公教 総務・調査部担当	
特別 I	時宜に応じた課題	◇教師が働きがいが高める環境整備を推進していくための学校としての取組と副校長・教頭の役割	全公教 研究部担当	
特別 II	開催地の創意を生かした課題	◇教員不足と言われる今、教員の魅力を再発見・再確認して、その発信方法を議論 ◇教員生活についての不安・抵抗感を低くする ◇魅力度ランキング最下位になることが多い茨城県からの発信	茨城県実行委員会担当	



人財を育む 活力ある学校づくりの推進」

研究の基本方針

(1) 学校教育の課題の解決に努める

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自らの職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

(2) 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追求する

学校運営において副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を追究するとともに職務機能の充実を図る。

(3) 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

研究活動と政策提言活動（要請活動）は全国公立学校教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

【各分科会とも参集150名、オンライン200名】

提言テーマ	会場
9か年を通した「学習者主体の学び」を具現化する教育課程を目指して －ビジョンの共有と連携・協働の推進役としての教頭のかかわり方－	アダストリアみとアリーナ 1階：サブアリーナ
コロナ禍を超えて一持続可能な教育課程の編成と教頭としての役割 －持続可能な教育課程編成の工夫と今後の課題－	アダストリアみとアリーナ 2階：会議室
校種間連携から考える教育課程 －札幌市の特色を生かした校種間連携による教育課程の工夫－	アダストリアみとアリーナ 2階：会議室
学校教育目標の実現を目指した教育課程の実践を推進する学校運営の在り方 －鍛え、磨き、育む資質能力の育成を通して－	ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸 2階：千波
児童生徒の豊かな人間性を養うために －「感動する心、思いやりの心、自他を尊重する心」の育成を目指した地域学校協働活動を通して－	水戸京成ホテル 2階：瑠璃の間
子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方 －チームとして子供を支援するための教頭のマネジメントについて－	水戸プラザホテル 1階：ガーデンルーム
地域の力を生かす学校環境づくり －社会に開かれた教育課程の実現を目指して－	水戸プラザホテル 2階：プラザボールルームE側
地域の力を生かした教育活動の充実を目指して －学校支援本部とのさらなる協働に向けての副校長の役割－	水戸プラザホテル 2階：プラザボールルームW側
生徒と一緒につくる「これからの揃わない前提の学校」づくり	水戸市民会館 2階：展示室
地域の特性を生かし教師が育ち子供が伸びる教員組織づくりを実現するための教頭の役割 －仕事に長期的戦略的課題を見いだせる教員を育成していく組織づくりの方法－	水戸市民会館 3階：会議室
楽しみながら学び続ける教職員集団の人材育成に向けた教頭の関わり －教職員のWell-Beingの実現に向けて－	水戸三の丸ホテル 4階：ステラ
若手教員の授業力と生徒指導力を高める研修と学校体制 －新潟県の教員育成を担う教員獲得困難地域の取組例－	
教員の同僚性・協働性の向上と学校運営参画に向けた教頭としての役割 －質問紙調査から考える教頭のあり方－	
指導教諭を核とした、町全体の指導力向上を目指して －配置校から町内各校へ 町教頭会として連携・協働した取組から－	
①全公教の調査結果分析と考察 ②職員室の心理的安全性を高める ー全国公立学校教頭会の調査を受けてー 講師：森 万喜子 氏 元北海道公立中学校長 文部科学省教育DXアドバイザー	
「教師が働きがい高める環境整備を推進していくための副校長・教頭の役割」 講師：公立学校校長	
「魅力発信で 教員不足解消を」 ー今 副校長・教頭としてできることー 午前の部：木内酒造株式会社 代表取締役社長 木内 敏之 氏 「酒造り200年 木内酒造の世界への挑戦」 午後の部：教育研究者 妹尾 昌俊 氏 「やってよかったという実感ある働き方改革を進めるには」	



記念講演 講師・シンポジウム

記念講演

《 7月31日(木) 13:15～14:15 》



アーティスト

石井 竜也 氏

1959年生まれ。茨城県北茨城市出身。高校卒業後、画家を目指し上京。文化学院美術科在学中に、米米CLUBの母体となるバンドを結成し活動開始。'85年にデビューした米米CLUBの中心的メンバーとして楽曲の作詞・作曲、ステージセット、コスチュームなどバンドを総合的にプロデュース。'97年からは音楽活動を軸にソロ・アーティストとして活動中。現在は、デビュー40周年イヤー中であり、音楽・アート面ともに精力的に活動している。

シンポジウム

《 7月31日(木) 14:30～16:30 》

テーマ「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」



コーディネーター
放送大学
准教授

小林 祐紀 氏

公立小・中学校の勤務を経て、2015年4月～2024年3月まで茨城大学教育学部准教授。2024年4月より現職。専門は、教育学（ICTを活用した教育実践研究、情報活用能力に関する研究）日本教育メディア学会理事、日本デジタル教科書学会理事、AI時代の教育学会理事。文部科学省学校DX戦略アドバイザー。

主な著書は

『AI時代の教師が知っておきたいIT・情報リテラシー 校務DXに必要な基礎知識』インプレス（2024）

『特別支援教育 情報活用能力を育む授業づくり』明治図書（2023）

『GIGAスクール構想[取り組み事例]ガイドブック』翔泳社（2022）



シンポジスト

茨城県教育委員会教育委員
常磐大学・常磐短期大学学長

富田 敬子 氏

茨城県水戸市生まれ。東京女子大学卒業。米国ジョージタウン大学大学院人口学修士課程修了。米国フォーダム大学大学院社会学博士課程修了。社会学博士。1988年、在ニューヨーク国連経済社会分析局に入職。国連アジア太平洋地域経済社会委員会人口・社会統合課課長、国連経済社会局統計部次長を歴任。2019年より現職。併せて、茨城県教育委員会委員、総務省統計委員会委員、国連国際人口移動統計専門家グループのメンバー等も務めている。



シンポジスト
水戸ホーリーホック
取締役GM

西村 卓朗 氏

サッカー選手として才能を発揮し、国立大学進学後、JFLでもプレーした。大学卒業後、Jリーグ浦和レッドダイヤモンズに入団。2004年大宮アルディージャに移籍し、J1昇格に貢献。その後、渡米し海外チームで活躍した後、2011年帰国し、札幌コンサドーレ加入を最後に引退。現在は、後進の育成に活躍中。浦和のスクールコーチ、関東サッカーリーグのVONDS市原FCのゼネラルマネージャー兼監督、コーチ等を経て、2016年より水戸ホーリーホックの強化部長に就任。2019年より、ゼネラルマネージャーを兼任している。



シンポジスト

株式会社結城麦酒
代表取締役

塚越 敏典 氏

茨城県結城市出身。公立小中学校で37年間の教員生活を終え、平成30年、地元の中学校長を退職。退職後再任用で主査として茨城県近代美術館に勤務する。教員時代に、児童生徒や地域の人々に語り続けた「No Play No Error」という自身の信条と現実と矛盾を感じ、美術館勤務の傍ら、ビールづくりの研修を進め、令和元年、第2の人生としてマイクロブルワリー「結城麦酒醸造」を創業。ユネスコ文化遺産にも登録された「結城紬」で知られる地元結城で蚕の餌となる桑の実（マルベリー）を使ったビールや地元産の大麦やフルーツ、教え子が作ったトウモロコシなどを使ったクラフトビールづくりなど地域振興にも貢献している。

全体会場

グロービスホール

水戸市民会館 《6》《特I》

〒310-0026
水戸市泉町1-7-1

TEL : 029-303-6226

《6》 2階：展示室
《特I》3階：会議室



分科会場

水戸市内6施設10会場

水戸京成ホテル 《3》

〒310-0011
水戸市三の丸1-4-73

TEL : 029-226-3111

《3》2階：瑠璃の間



アダストリアみとアリーナ 《1A》《1B》

〒310-0034
水戸市緑町2-3-10

TEL : 029-303-6335

《1A》1階：サブアリーナ
《1B》2階：会議室

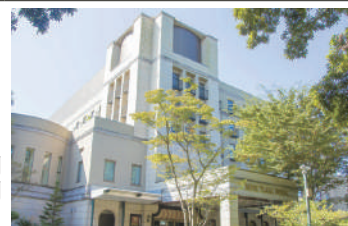


水戸プラザホテル 《4》《5A》《5B》

〒310-0851
水戸市千波町2078-1

TEL : 029-305-8111

《4》1階：ガーデンルーム
《5A》2階：ボールルームE側
《5B》2階：ボールルームW側



ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸 《2》

〒310-0031
水戸市大工町1-2-1

TEL : 029-303-5111

《2》2階：千波



水戸三の丸ホテル 《特II》

〒310-0011
水戸市三の丸2-1-1

TEL : 029-221-3011

《特II》4階：ステラ



<参加申込>

(1) 申込方法 下記大会申込専用サイトから参加者によるお申込み

<https://kyoikuplaza-ibk.or.jp/kyoutoukai/全国大会茨城大会/>

(2) 申込期間 令和7年4月1日(火)～6月2日(月)まで ※期日厳守

※各都道府県教頭会事務局には、別途案内する方法により参加者名簿の提出と参加費の納入をお願いします。

※公費から直接大会事務局へ参加費を納入する必要がある場合は、下記問い合わせ先までお知らせください。



<大会問い合わせ先>

全国公立学校教頭会研究大会 茨城大会実行委員会 (茨城県小中学校教頭会事務局内)

TEL : 029-269-2711 E-mail : iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp

※2次案内掲載先 上記サイトと同じ(右上QRコードよりアクセス可)

<手配内容(宿泊・輸送・弁当)その他に関する問い合わせ先>

近畿日本ツーリスト株式会社 東日本支社 水戸支店

(営業時間(月～金) 10:00～17:00 ※土・日・祝は休業)

TEL : 029-225-1015 E-mail : 0120-mito@or.knt.co.jp 担当 : 小林

※休業日と営業時間外の取消・変更のお申し出には対応できませんので、翌営業日の受付となります。

<受付システムの操作方法に関する問い合わせ先>

令和7年度 第67回全国公立学校教頭会研究大会 茨城大会 サポート事務局

(営業時間(月～金) 10:00～17:00 ※土・日・祝は休業)

TEL : 03-6863-2507 E-mail : mito-taikai@ech.co.jp 担当 : 坂口

- 1 茨城県小中学校教頭会の HP より、「大会参加申込サイトへ」をクリックする。
→ <https://kyoikuplaza-ibk.or.jp/kyoutoukai/全国大会茨城大会>
- 2 仮登録のページが開くので、自分のメールアドレスを入力する。その後、返信されてきたメール内のリンクを開き、本登録する。← 各自のメールアドレス把握完了

※このとき、直ぐに返信が来ない場合は、アドレスの入力ミスが考えられるので、もう一度最初からやり直すよう案内する。

3 申込者に入力してもらう内容

※6月2日（月）を締切日とするが、その後も入力できるようにしておく。

- ① 参加方法（参集・オンラインの2択）
- ② 分科会名（第1A・第1B・第2・第3・第4・第5A・第5B・第6・特I・特II・視察 の11択）
- ③ 名前
- ④ 所属教頭会名 ← プルダウンを検討
- ⑤ 学校名（所属先名）
- ⑥ 大会要項の送付先住所 → 郵便番号から自動入力されるようにする
- ⑦ 所属先の電話番号

※オンライン参加者はここで終了となる。→ 入力確認画面へ

- ⑧ 弁当の支払い方法（個人、所属教頭会一括 の2択）
- ⑨ 宿泊手配の希望（あり・なしの2択）
→ 「あり」は、希望ホテル、宿泊希望日等の入力へ
→ 「なし」

※このとき、弁当が「都道府県教頭会」払いで、宿泊希望「なし」の場合は、ここで終了となる。→ 入力確認画面へ

- ⑩支払い方法（クレジットカード・コンビニ払・振込等）

※弁当代、宿泊代の発生した人のみ入力を求めるようにする。

- 4 入力確認画面が表示され、内容を確認して完了する。

<各単位教頭会から申し込んでもらうこと>

- 1 参加者名簿（参集、オンライン、視察）を茨城大会事務局へ提出する。
→分科会名、名前、学校名、学校規模、所属先電話番号 を入力
- 2 参加費の徴収と送金